



平泉の魅力向世界に向けて発信 全国ベスト10観光ウェブサイト

2月19日、平泉観光協会の千葉力男会長(写真中央)と山平功二事務局長(写真右)が役場を訪れ、同協会が開設する外国語表記のホームページが、一般社団法人日本フォトツーリズム協会が主催する「フォトジェニックサイト・アワード2018」で全国ベスト10観光ウェブサイトの一つに選ばれたことを報告しました。千葉会長は「今後も魅力的な写真や分かりやすい外国語などを心掛け、外国人により優しい対応を目指していきたい」と話していました。



地域一丸となった自主防災活動 12区自主防災会が優良表彰

平泉町第12区自主防災会(三浦明会長)が、地域一丸となった自主防災活動の積極的な取り組みが認められ、一関市消防本部より優良表彰を受賞しました。この表彰は、一関市・平泉町内で自主的に防災活動に取り組み地域防災力の向上に努めている個人・団体を表彰するものです。

2月26日に町役場を訪れ、青木町長に受賞を報告した三浦会長(写真中央)は「受賞は行政区長や地域の皆さんの協力のおかげ」と感謝していました。

申告納税制度の普及発展に尽力 千葉さんが仙台国税局長表彰を受賞

平泉青色申告会会長の千葉礼子さん(12区)が、長年にわたり率先して申告納税制度の普及啓発に努め、納税思想の高揚に尽力された功績が認められ、平成30年度仙台国税局長表彰を受賞されました。千葉さんは昭和58年に平泉青色申告会の理事となり、その後副会長や会長を歴任。現在は県青色申告会連合会の理事なども務めています。千葉さんは「皆さんの支えがあり受賞することができた。今後も納税の普及発展に努めていきたい」と話していました。



放射線量などの測定状況

問い合わせ先…放射線対策室 ☎46-2125

＜町内農産物などの測定結果＞

品目	産地	測定件数	放射性セシウム134と137の合計値(バクレル/kg)	備考
フキノトウ	平泉	1	不検出	基準値未満
セリ	平泉	1	不検出	基準値未満
葉ワラビ	平泉	1	不検出	基準値未満
タラノメ	長島	1	不検出	基準値未満

▷測定日は2月14日～3月13日

＜学校給食食材の測定結果＞

学校や保育所で使用・提供される給食食材や給食の放射性セシウムを測定した結果、全ての食材、学校給食で不検出の結果となりましたので、安全が確認されています。

■測定日…2月20日～3月13日

＜3月の定点地点放射線量測定結果＞

毎月測定している公民館・小学校などの定点地点(町内33カ所)の空間放射線量測定結果については、全測定地点において、国の除染基準である0.23マイクロシーベルト/時を超える地点はありませんでした。

第10回 ものをつくる。ひとを育てる。

魅力あふれる町内のさまざまな企業などを紹介します。

■問い合わせ先…観光商工課 ☎46-5572

◆有限会社千葉恵製菓

所在地…(本社工場)平泉町平泉字佐野原59-3

代表者…代表取締役 千葉正利

従業員数…84人(パートナー社員含む)

創業…昭和37年

会社概要

戦後、山目村(現一関市山目町)で、現代表取締役の祖父千葉恵吉が、自宅で「油麩」の製造販売を開始。昭和37年に「千葉恵菓子店」を創業し、和洋菓子の製造卸販売を開始。昭和47年に現在の本社工場に新築移転し、翌年に有限会社千葉恵製菓を設立しました。

「あんドーナツ」や「かりんとうまんじゅう」などの定番商品のほかに、季節商品やお盆菓子なども手掛け、県内外の量販店やスーパー、コンビニなどを中心に北海道から九州まで販路を拡大しています。

問い合わせ先…☎46-2791 FAX46-4110



さまざまな商品を販売



千葉恵製菓の本社工場

Interview

毎日食べられるお菓子を目指して

和菓子を通して、歴史と伝統の平泉を宣伝するのに役立てればと思いついた商品が「かわらけかりんとう」です。これは町内の遺跡から多数出土するかわらけを連想させる薄く伸ばしたかりんとうの生地にあん入りの黒蜜やごまを絡めた揚げ菓子です。食品添加物は使わず、小麦や砂糖、水などシンプルな材料のみを使用しており、素朴な味わいで飽きがこないと多くの方からご好評を得ています。

今後も、地元企業として「平泉」を広く発信できる商品の開発などに積極的に取り組んでいきます。



代表取締役
千葉正利さん



◀千葉恵製菓が5月から本格販売する「かわらけかりんとう」。販売価格は大袋(200g)が300円(税別)、小袋(80g)が120円(税別)。

平泉を掘る

重要文化財紹介②4

山水飛雁鏡・蒔絵鏡箱

平成3年に行った伽羅之御所跡5次発掘調査で、12世紀の井戸跡の底から銅鏡が鏡箱に収まった状態で出土しました。鏡箱は身だけで、ふたは見つかりません。

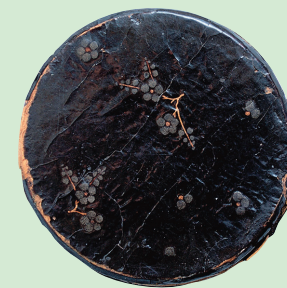
銅鏡の大きさは直径10.2センチ、厚さ0.1～0.2センチで、重さは113.5グラムあります。背面の中央には花の形を模した直径1.6センチ、高さ0.5センチの高まりがあり、ひもを通すための穴が開いています。また、背面は幅0.2センチ、厚さ0.7センチの縁で囲まれています。この縁の内には、水の流れと岩の風景があしらわれ、鳥(ガン)が戯れ遊ぶ様子が描かれていることから「山水飛雁鏡」と呼ばれます。

蒔絵鏡箱は直径11.1センチ、高さは1.6センチのものです。素材はヒノキで作られています。内外面に漆が塗られており、側面にはシダなどの植物や蝶、底面には梅の花の蒔絵が施されています。蒔絵は漆の上に金、銀などの粉を蒔いて模様を描く高度な技法で、金色堂にも用いられています。

この銅鏡と鏡のセットは、当時の人が井戸を埋める時に一緒に埋めたものとみられ、祭祀に使われたもののようです。秀衡の常の居所と言われる伽羅之御所からの出土品としてふさわしいものであり、銅鏡とそれを収める箱がセットで出土することは全国的にも大変珍しい事例と言えます。



山水飛雁鏡の背面



蒔絵鏡箱